

平成 28 年度 高梁川流域地域づくり連携推進事業

幼児に対する防災体験プログラムの普及と 保育者・支援者向け防災講演会

(こどもの防災を考えるちゃやっこ・こっこプロジェクト)

報告書

目次

P2-3	実施概要、事業実施記録	
P4-16	幼児向け防災教育と地区防災計画	2017 年 3 月 6 日(金) きよね夢てらす
P17-21	こどもに伝える防災教育	2016 年 10 月 26 日(水) くらしき健康福祉プラザ
P22	社会課題の解決を考えるワークショップ	2016 年 8 月 4 日(木) 倉敷市役所
P23	園児向け 防災体験プログラム	2016 年 8 月 4 日(木) 遍照保育園
P24	小学生向け 防災体験プログラム	2017 年 3 月 28 日(火) きよね放課後児童クラブ
P25	園児向け 防災体験プログラム	2017 年 3 月 30 日(木) 牛窓ルンビニ保育園

一般社団法人チカク

2017/3/31

事業概要

事業名	幼児に対する防災体験プログラムの普及と保育者・支援者向け防災講演会
グループ名	こどもの防災を考える「ちゃやっこ・こっこプロジェクト」
代表団体	名称 一般社団法人チカク
	担当者 赤木 美子
	E-mail ekinotikaku@gmail.com

目的と概要

① 目的

- 親子、および保育関係者、子育て支援者に対して、防災講演会やワークショップおよび防災体験プログラムの普及を行い、地域の防災意識向上を図るとともに子ども向け防災プログラムの担い手を育てること。

② 実施概要

- 具体的な災害イメージの湧く防災講演会、防災ワークショップを通じて、保護者、支援者に対しての防災意識を高めるレクチャーを行う。災害時、避難所における女性の役割の重要性に鑑み、このプロジェクトでは、専門的知見を有する防災のスペシャリストとして、小学生以下のこどもを持つ二人の女性を想定している。

A = 危機管理教育研究所代表、危機管理アドバイザー国崎 信江(くにぎき のぶえ)氏による保育園・幼稚園向けの講演

B = 香川大学 危機管理研究センター、特命准教授 磯打 千雅子氏による地区防災計画の概要と役割、ワークショップ。

- 親子、および保育関係者、子育て支援者に対して、防災体験プログラムの普及を行い、地域の防災意識向上を図ること。具体的には、現在、一般社団法人チカクが子ども防災ネットワークおかやまの一員として 2011 年 11 月から 5 歳児向けに行っている「防災体験プログラム」を、総社市の NPO 法人きよね夢てらすの子育て支援のグループ(子育て応援こっこ)に伝え、倉敷－総社圏域での防災体験プログラムのニーズに応えるものとする。

C = これまでの活動紹介と、一般社団法人チカクの防災士資格を持つスタッフによるデモンストレーション、保育園などでのプログラム実施への見学、実施

D = 地域ならではの課題の洗い出しと、それぞれの活動への還元。総社と倉敷でそれぞれ地域子育て拠点(ちゃやっこひろば・チカク、子育て応援こっこ)を運営している二つの団体として交流を深め、地域の子育て中の親子のさまざまな課題について、行政区を超えて協力できる体制を築く。

事業実施記録

実施内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数
申請前 打合せ	5/12	きよね夢てらす	赤木、福光	—
申請前 行政ヒアリング	6/8	市民活動センター	赤木+市町担当者	—
打合せ	7/6 18-1930	チカク(茶屋町)	赤木、磯打	—
●見学 防災体験プログラム 取材 どんぶらっこ	8/4 930-12	遍照保育園	チカク 3 こっこ 4	年長 25 名、 保育士 3 名
●関連プログラムへの参加 社会課題の解決を考えるワークシ ョップ（地域の防災について）	8/4 13-1630	倉敷市役所	こっこ 3 チカク 2	—
●全体ミーティング 今年度の実施内容について	10/26 10-11	くらしき健康 福祉プラザ	こっこ 3 チカク 6 音響 1	—
●講演会① こどもに伝える防災教育 講師 危機管理教育研究所代表 国崎信江さん 取材 山陽新聞	10/26 11-17	くらしき健康 福祉プラザ	国崎信江 こっこ 3 チカク 6 音響 1	一般 33 人
●全体ミーティング 防災体験プログラム事前準備	2/9 930-1130	きよね夢てらす	こっこ 3 チカク 4	—
●防災体験プログラム 幼児向け防災教育と地区防災計画 講師 三村芳恵（チカク）ほか	3/6 10-12	きよね夢てらす	こっこ 3 チカク 4	親子 8 組 一般 9 人
●講演会②+ワークショップ 幼児向け防災教育と地区防災計画 講師 香川大学四国危機管理教 育・研究・地域連携推進機構 地 域強靱化研究センター 特命准教 授 磯打千雅子さん 取材 FM おかやま	3/6 13-17	きよね夢てらす	磯打千雅子 こっこ 3 チカク 5	一般 19 人 こっこ 3 人 チカク 5 人
●防災体験プログラム きよね放課後児童クラブ・ランド セル	3/28 930-12	清音公民館別館	こっこ 3 チカク 3	6~9 歳 38 名、 職員 5 名
●防災体験プログラム 牛窓ルンビニ保育園	3/30 830-1230	瀬戸内市牛窓町 牛窓 4959-5	こっこ 2 チカク 2	年長 16 年中 27 年少 17 名 +職員 12 名

幼児向け防災教育と地区防災計画

2017年3月6日(金)10:00～15:30 @ きよね夢テラス

防災体験プログラム 11:00～12:00

実施概要

高梁川流域の七市三町からの助成で行うこの事業の大きな目的は、一般社団法人チカク(倉敷)が行う幼児向け防災体験プログラムを、NPO 法人きよね夢テラス・こっこ(総社)に伝え、その後、実施にかかわっていただくというものである。

この体験プログラムは、2011 年に全労済と県内の NPO が立ち上げた「子ども防災ネットワークおかやま」の中心プログラムであり、危機管理アドバイザーの国崎信江さんの監修を受けて一般社団法人チカクが中心になって担っているもので、これまでに 2000 人以上のこどもたちが体験している。通常は、年長さん(5 歳児)向けのプログラムだが、本日は小さなお子さんとお母さんが一緒に体験するので、大人向けの説明も少し加えながら進めていくこととした。

災害が来たらこうしましょう、という話ではなく、いつもと違う状況になった時に、自分で考え、自ら動くことのできる、そんなお子さんを育てるために参考にしていきたい。全体の進行をチカク・三村が、それぞれのプログラムを総社「こっこ」と倉敷「チカク」協力して行う。



きよね夢テラス

地震のこともっと知ろう～地震発生！揺れたらダンゴムシ

30 分

- 絵本の読み聞かせ、みんなで団子虫のポーズを練習 ⇒ 絵本と手遊びを使って、地震が起きたら、自分の身体を危険から守る行動をとることを意識づける。
- 体の中で一番に守らなければならないところは頭であることを伝える。
- 「ダンゴムシ」をイメージさせて体得させたほうがよい。「ダンゴムシのポーズ」では、衝撃を和らげるために頭と手の間を開けさせる。



- 地震がおさまったあとの行動。先生はたまごの殻を床に散らす。園児にその上を歩かせてみる ⇒ はだしで行動することの多い園児には割れて飛散するものが危険であることを気づかせる。他にも危険なものがないかを園児に聞いてみる。
- 卵の殻を踏んでケガをした事例はないが、子どもたちの不安を取り除く手本として、歩いてみせることを心がける。怖がる子ども、嫌がる子どもには無理強いしない。
- 殻が散乱している状況を見せ、踏ませることにより、避難する時は前だけでなく足元にも注意することを体得できるようにする。卵の殻だとケガはしないが、ガラスだったらどうなるのか、子どもたちと一緒に考えるようにする。



- 周りをよく見て友達はいるか？みんな無事かな？調べてみよう。（自分が安全だったら友達の安全も確認する） ⇒ ガレキに埋まっているくまを見せる。どうしたら助けられるか。考えさせた後にジャッキで救出する方法を見せる。
- ジャッキの使い方を間違えるとケガをすることもあるので、あそびでやってはいけないこ

とや指導者のもとで体験することを伝える。実際の災害時に子どもが救助をおこなうことはないが、「ジャッキ」という道具の名前とその働きを伝え、身近なもので人を助けることができることや、「人を助ける」というやさしい気持ちを育むことを意識する。

- 子ども自身が挟まれたときを想定し、必ず助けが来るから安心して、希望を捨てずに待つことを伝える。挟まれたことを大人に早く伝える方法として、近くにあるものをたたく、ほこりが静まってから大きな声をだす、笛があったら吹いて知らせるなどを伝える。

ケガをした時に役に立つものを作ろう！（包帯づくり）

今回は説明のみ。

- 止血に使う包帯を作ろう！自分の作ったものが人の役に立つ喜びを知る。（誰かのために何かするという優しい気持ち、災害時には小さくても役に立てるという意識を育む。）

休憩・午後の受付 12:00～13:00

- DVD「遍照保育園、防災体験プログラム」 など視聴

地区防災計画について 13:00～15:30

実 施 概 要

講師は、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター 特命准教授 磯打千雅子さん。工学博士、専門は地域防災、事業継続計画（BCP）、地域継続計画（DCP）など、主に災害時の組織間連携について研究。内閣府地区防災計画有識者懇談会委員、地区防災計画学会理事。倉敷市防災士の会の会員。ご自身も小さなお子さんがいらっしゃるワーキングマザーでもある。

災害時に地域の人や組織が有機的に結びつくために、行政が計画した防災計画ではなく、その地域に住む人たちが実際にかかわって作る防災計画が「地区防災計画」。「地区防災計画」を作る過程は、地域に暮らす人だからわかる災害に対する具体的なイメージを計画に落とし込む作業になる。

午後のセミナーでは、磯打先生から「地区防災計画」の成り立ちと特性をお聞きし、ワークショップで深め、その後発表、質疑応答となる。今回の参加申込者は防災関係者だけでなく、子育て支援にかかわるメンバーも多い。地域の人がかかわっていく過程で、地域の弱いところ強いところが見えてくる。災害時に弱者となりやすい、女性・子供・高齢者の視点で、地区の防災について考える機会にしたい。



『どのような未来を子ども達に手渡したいか』

- 未来を手渡すための手段として、地区防災計画がある。その計画の概要、効果についてのお話。最近、鳥取地震や熊本地震など災害が多発している。私達は、同じような悲しみを次の世代まで体験させたくない。例えば、防災センターでの体験や学習施設、石碑(これより下に家を建てない)などの形で教訓を残せるが、もっと社会に仕組みとしてこの教訓を残していきたいというところが、今回の地区防災計画の大きな主旨である。

『地区防災計画』

- 地区防災計画は、「計画を作りたい」、もしくは「みんなで協力して、災害の時にこういうふうに助け合おうというのを考えたい」、そう思う方が自主的に集まって考え、計画づくりをしていくこと。
- この計画を作る時には、学校、保育園、幼稚園、地域のコミュニティなど地域活動の担い手、企業など、同じ地域を共有して一緒に住んでいる人達が連携し、「災害時の避難のルールづくりをしよう」、「どうやったら災害による被害を小さくできるか」、「まちづくり自体を見直そう」、また「避難所運営のルールをどうしたらみんなが嫌な思いをせずに過ごしていけるかというのを考えよう」ということなどを話し合いこの計画を作る。

『行政はあくまでもサポーター』

- 我々が「こういう計画が必要なんじゃないか」、「災害のときルールとしてこういったものが重要なんじゃないか」という事をみんなで決めて、それを総社市、倉敷市に提案する事によってこの仕組みが成り立つ。市は提案されたら無視できないので、地域の方からあがった内容について、市も考えるきっかけになるのでお互いにとってメリットが高い。

『地区防災計画書作成の注意点』

① 「専門的な知識」

- 命を守るために具体的にどうしたらいいかというのは、専門的知識が必要。計画づくりのサポーターとして防災士や大学教授、また地域で活躍する専門的知識を持っている方が携わることによって地区防災計画を作っていく。

② 「急がない」

- 共同作業をする時に困るのが、色んな人が関われば関わるほど、都合が合わなくなっていくので時間がかかること。ただ、ここのポイントは「急がない」、ゆっくりでいいのでみんなでやっていくことを心掛けて取り組む事が、この連携作業の大きなポイントになる。

③ 「地区防災計画の文章化しないといけない内容」

- 普段目に見えない所のルールとかノウハウを、地図や文章で形にして、連携する方々、みんなで、チームで共有するもの。

『地区防災計画書のメリット』

- 防災対策は市町村単位で行っているが、この制度は、地域の人が他の市と一緒にやりたいという意志があれば、それを認めてもらえる。
- 市が、「地区防災計画書が地域全体を見てもおかしくないルールだ」と思えば、市で作っている地域防災計画書に載せてくれる。自分達が決めたことを市がちゃんと記録として残してくれれば、次の世代まで必ずつないでくれるので、そういったバックアップをしてくれる人が亡くなっても、その意志だけは受け継がれていくという大きなメリットがある。

『各地域の防災対策の例』

① 「津波てんでんこ」

- 津波の恐れがある時、率先避難が原則。地震後 15 分以内までは助け合いの時間。お互い助け合って何とか避難する。でも 15 分過ぎたら、自分の命を優先しててんでんこする。要援助者の方も 15 分の間に玄関に出ておけば地域の方に助けてもらえるルールづくり。

② 「県境を越えた避難計画」

- 吉崎集落は石川県と福井県にまたがっている。東日本大震災の後、津波の被害想定が見直された際、石川県側と福井県側にくる津波の被害想定の数値が 2m と 8m だった。防災対策では、「石川県の人が福井県に避難します」という計画を、石川県の行政の方は作れない。地区防災計画の制度を使えば、住んでいる方が「私は災害が起きたらこっち側に行く」ということを決められる。地域の取り組みを地区防災計画の制度を使ってやった事例。

③ 「企業との連携」

- 徳島県鳴門市にある大塚製薬工場。南海トラフ地震が起きると、50 分程で津波がきて 2～3m 浸水する地域。できる限りの防潮堤や堤防を作ったり、液状化対策をしたり、自社の敷地の災害に対する強さを高めて、且つ、地域の方も大塚製薬工場の屋上に避難させてあげる。ここの工業団地の他の会社でも大塚製薬工場の屋上に避難可能。ここの地域で一番安全な場所になっている。

『地区防災計画のポイント』

- 取り組みの結果として得られる規範やルールだとか資源に重きを置くのではなく、取り組む過程と維持継続が大事。みんなで一緒に取り組むという時間を共有することと、出てきた結果をどう維持していくかに力を置くのが一番のポイント。

『行政職、防災士の方にサポーターとして配慮いただきたいポイント』

- 情報の提供。どういう災害がその地域で起こるのか、それが私達の生活にどういう影響を及ぼすのかという情報のサポートや、場の提供。自分の住んでいる建物が分かるくらいの大きさの地図の提供。
- 地域の方が「これをやろう」と手をあげるのは勇気がいる事なので、行政が地域の人々で防災を考える場を提供したり、お母さん達に今日のような防災体験をしていただき、そこで声を聞いてみるとか、そういう場のきっかけ作りがとても大切。

『地域の共助』

① 炊き出しなどの役割分担

- 釜も大きいし、女性だけではとてもできないので、地域の料理屋さん、料理が得意なシニアの男性など、地域で得意なことを得意な人にやっていただくのが、自主防災組織の基本。活動のポイントは地域内の専門家や経験者など、お互いの人生の発掘が大事。

② 女性

- 地域の子どもやお年寄りのお世話をしているのは、多くが女性。この制度で防災の事を考えた時、女性にこの取り組みにどう参加してもらうかがとても大切。

③ 防災リーダー

- リーダー的な存在になるのは男性の方が多い。地域のリーダーになっている男性、町内会長は災害が起きた時、精神的にも肉体的にも大変で、過労死寸前の状況になるということはいろんな災害である事実。そうならないように、いろんな方と協力して、やり方を身に付けておくことが、男性自身の身を守る術としてとても大切。
- いろんな方と取り組む、そういうことにこの制度を使ってほしい。キーワードは多様性と継続性。絶対に一人で抱え込まないで、声を掛け合ってこの計画を取り組んでいこうというのが計画の主旨。

④ 社会的弱者

- 災害による被害は個別不平等。社会の仕組みがうまくいかなかった時、社会的弱者であったり、常にギリギリの生活をしている人がよりいっそう孤立してしまう。普段、私達が暮らしている中で、そういう方が地域にいる事に対して、家庭とか、地域の人だとか、人と人との関係性だとか、つながりを大事にしないといけない。そういった、共感を育むような人づくりが必要。
- 今日ここに来たまなさんは、今は元気で大丈夫だが、「南海トラフ地震が起きる可能性は今後 30 年で 70%」と言われる中で、20 年後災害が来た時に、もしかしたら元気じゃないかもしれない。災害がきた時に、女性がちゃんと身近な家族をケアできるような仕組みができていなければ、自分が今度、災害が起きた時の被害を受けることになる。

⑤ 『学校関係、子育て支援に関わっている方に向けて』

- 子供を安心して預ける場所がないと災害の時、お父さん、お母さん達が働きに行けない。そうすると、地域、社会の復興がどんどん遅れていく。親が子どもを預ける場所がなければ、復興事業に関わる事が出来ないのでは、会社に行けない、行政に携われないとなると、社会の復興が全く進まない状態になる。
- みなさんのお仕事は早期復興を進める上で、とても大切なので、いち早く保育園、幼稚園、子育て支援の場所を開くことが、地域の復旧、復興に早く着手できることになる。
- ぜひ防災の取り組みに、今後少しずつでも繋げていただけるとありがたい。



- 全5班。(1班に5～6人)
- 用意するもの…A3用紙、マジック、シール。
- お題は3つ。

『子ども達にどのような地域、もしくは未来を手渡したいですか』

- どういう事を計画にするか考えるきっかけづくり。各グループ、それぞれの方の立場が違っているので、お互いがどういう事を考えているのかを話し合う。自身の職業や地域での役割などを中心に考えて、理想的な形で子ども達に未来を残せていけたらいいなという事を書き留める。

『(そのために)災害について不安に思うこと』

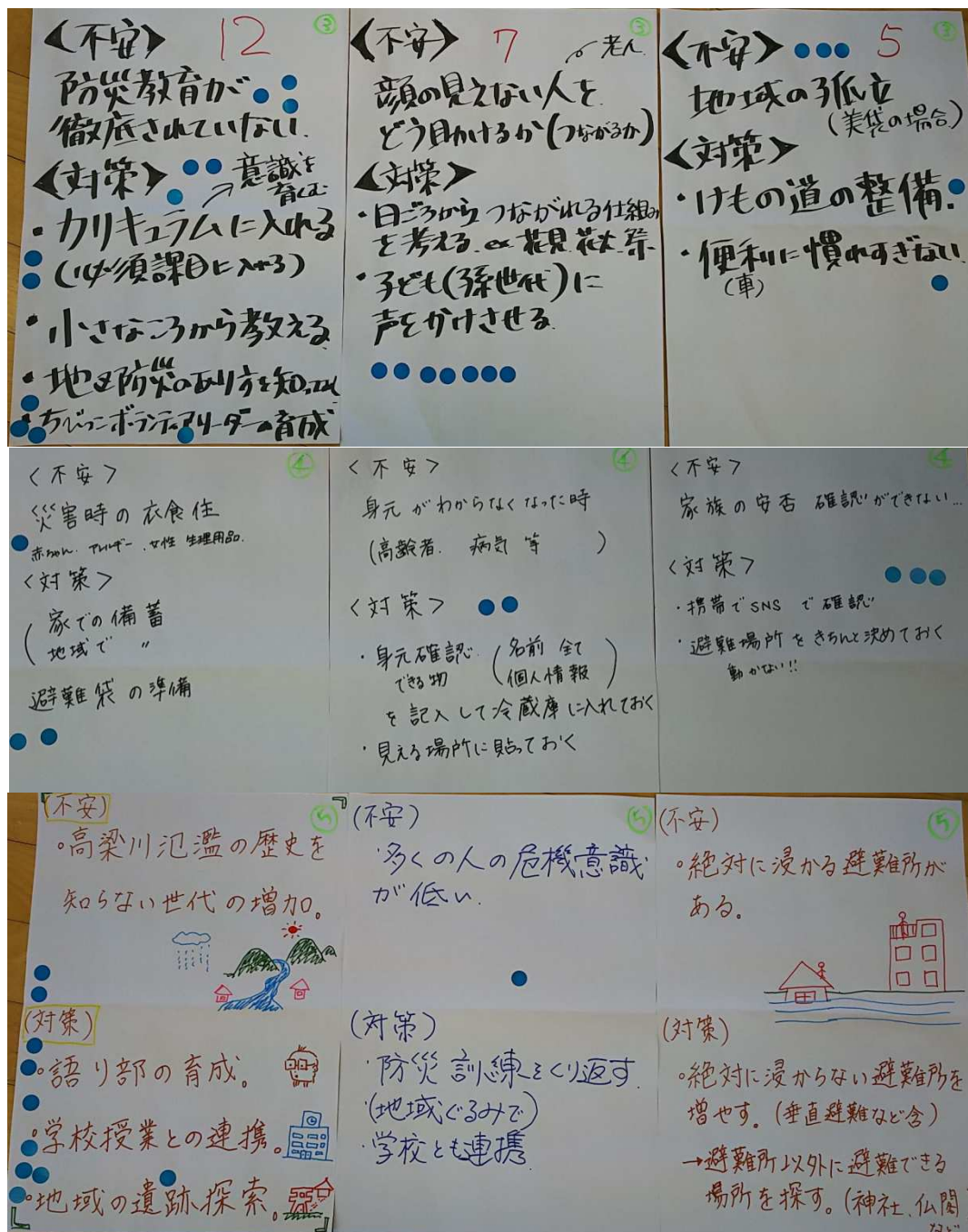
- 災害が起きた時の事を考え、「こういうのが不安だなあ」と思うことについて話し合う。
- これはまとめにつなげたいので、みなさんの共通認識のあるような内容で意見を出しあう。

『その不安は自分、もしくは自分の仲間だけで解決できるか』

- 最後のまとめ。解決できない不安が何なのか。みなさんの共通の大きな不安を3つ出し、知恵を出し合って解決策を考える。A3用紙を縦に使って、マジックで1項目1枚で、3つの不安と対策を(上に不安、下に対策というセット)であげる。
- これはみんなで話し合うきっかけ作りの練習。みなさんが不安に思う事のうち、「自分達だけで解決できないので、地域の人みんなで協力した方がよりいい」と思われる対応について3つあげて、より具体的にこうするといいだろうというところまでまとめる。
- 最後に3項目出したら、シールを持って各テーブルを周って、いいと思ったところにシールを貼っていく。一番良かった案にはたくさんシールがついているので、みんなで出し合った知恵を共有したい。



「不安」 水害のとき地震のとき、 具体的にどう行動すればいいのかわからない。 「対策」 - 避難訓練に参加する - 自助!!	「不安」 災害について、知らない。 災害の発生について、情報。 自分の家は大丈夫か? (耐震性でいい? 水がどうなる?) 水害のとき、地震のとき、具体的にどう行動すればいいのかわからない? 「対策」 小学校と一緒に学ぶ (子どもも) まちあるま、とか。	「不安」 地域のことは知らない。 どこに避難が住んでいるかわからない。 地域活動、何があるかわからない。 「対策」 - 町内単位で地区のことは勉強、楽しく学ぶ - 日帰り防災キャンプをやる - お祭りの中に入れる - 非常食の試食
[不安] 知らない 知られてほしい 自分 「対策」 顔の見えるつき合い! おこう3軒両どなり!! 5人組制度 ふかつ00	<不安> 今の子ども達危機回避できない。(自分で考えることができない) <対策> 言い換え 自分で考えて行動(教育) 自分の気持ちと言葉を繋げる	[不安] 自分が悪い人(エゴイスト)になるのではない? 例えば... 食べ物は分けられない、あげられない、持っている、使えない 「対策」 非常時は誰れでも「なり」 感情であることを認めて。 ○○○にすぎない



まとめ

防災の話をするとう最初に「課題」から議論に入る場合が多い。不安なこと、できていないこと、不備があることなどを挙げていっても、さまざまな立場や環境があり解決に結びつかず、結果として不安や消化しきれない思いだけが残ってしまう。そうではなくて、「どういつきっかけで何を決めていったらいいか」という時の一つのやり方として、今回のお話と、それに続くワークショップで考えた道筋はとても参考になった。

また、防災、子育て支援というそれぞれ限られた層の(年代・性別)の人だけが集まって議論しがちだが、今回のようにさまざまな属性の人たちが未来に向かって議論を重ねたこと、「やりたい、残したい未来」があって「そのために考える」としていった考え方の道筋が若い人や中高生をも巻き込みやすいという磯打先生のご指摘に、共感し必要性を強く感じた。防災を行政区で考えるのではなく、これまで連携の薄かった流域圏の防災・減災を糸口に、日中、家にいる乳幼児と母親、老人をつなぐネットワークの構築について、検討をすすめたい。

(文責：赤木、野山)

幼児向け防災教育と 地区防災計画

参加無料
要事前申込

2011年10月、全労済岡山県本部が県内のNPOなどと立ち上げた「子ども防災ネットワークおかやま」は、子ども向け防災体験プログラムを通じて、災害に対する備え＝日頃の生き方の姿勢を見直すことの大切さを、県内の園児、生徒たちに伝えてきました。2017年3月、東日本大震災から6年を機に、子育て支援者を対象に、この幼児向け防災体験プログラムのデモンストレーションを体験していただき、その後、地域防災の第一人者による地区防災計画のお話を伺います。守られる存在ではなく、地区防災活動の主体となる、子育て支援関係者、保育・教育や防災に携わるみなさんのご参加をお待ちしています。

日時 2017年 3月 6日月

午前の部 11:00～12:00

幼児向け防災プログラム・デモンストレーション（子ども防災ネットワークおかやま）

休憩 12:00～13:00

※遍照保育園で実施した防災体験プログラムの実際の映像などを上映します。

午後の部 13:00～15:30

地区防災計画のあり方を学ぶ（講師：磯打千雅子さん）

会場

きよね夢てらす（総社市清音軽部666-6）
お車で越えの方は、旧清音公民館の南側の空き地に駐車できます。

対象

子育て支援・保育・教育にかかわる方、こどもの防災に興味のある方、地域の防災にかかわる方

参加方法

- ①～⑤の内容を明記しメールかファクスでお申込みください。
①名前と所属、②お住いの市町村名、③連絡のつく電話番号かメールアドレス、④参加希望時間帯、⑤参加動機。
- [Email] ekinotikaku@gmail.com [FAX] 050-3488-4116
- 午前午後とも定員30名まで受け付けます。託児はありませんが、午前は子ども同伴可能ですのでご相談ください。
- 午前午後とも参加の方は、昼食は各自でご手配ください。

主催

一般社団法人チカク [TEL] 080-2900-8116（担当：赤木）

協力

NPO法人きよね夢てらす、子ども防災ネットワークおかやま



磯打 千雅子さん

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
地域強靱化研究センター
特命准教授

■博士（工学）、専門は地域防災、事業継続計画（BCP）、地域継続計画（DCP）など、主に災害時の組織間連携について研究。内閣府地区防災計画有識者懇談会委員、地区防災計画学会理事。

■私たちが助け合って災害から命を守るために、地区防災計画に取り組んでみませんか？

不安	対策	Point
地域のことを知らない。 ・どこに誰が住んでいるか分からない。 ・地域活動、何があるか分からない。	・町内単位で地域のことを勉強。楽しく学べる工夫。 ・日帰り防災キャンプをやってみる。 ・お祭りの中に入れる。 ・非常食の試食。	16
防災教育が徹底されていない。	・カリキュラムに入れる。意識を育む。(必須科目に入れる。) ・小さな頃から教える。 ・地域防災のあり方を知っておく。 ・ちびっこボランティアリーダーの育成。	12
今の子ども達、危機回避できない。 (自分で考えることができない。)	・訓練。 ・自分で考えて行動。(教育) ・自分の気持ちを言える場を作る。	10
高梁川氾濫の歴史を知らない世代の増加。	・語り部の育成。 ・学校授業との連携。 ・地域の遺跡探索。	10
顔の見えない人(老人)をどう助けるか。(つながるか。)	・日頃からつながれる仕組みを考える。例…花見、花火、祭。 ・子ども(孫世代)に声をかけさせる。	7
知らない。知られていない。『自分』	・顔の見える付き合い。 ・「向こう3軒両隣」5人組制度、復活。	5
自分が悪い人(エゴイスト)になるのではないか？ ・食べ物、持ち物を分けられない、あげられない。 ・優しくなれない。	非常時は誰でもなりうる感情であることを知っておく。〇〇〇にすぎる。	5

不安	対策	Point
地域の孤立化。(美袋の場合。)	・けもの道の整備。 ・便利(車)に慣れすぎない。	5
災害時の衣食住。 ・赤ちゃん、アレルギー、女性、生理用品。	・家での備蓄。地域で備蓄。 ・避難袋の準備。	3
家族の安否確認ができない。	・携帯で、SNSで確認。 ・避難場所をきちんと決めておく。動かない。	3
身元が分からなくなった時。(高齢者、病気等。)	・身元確認できる物(名前全て、個人情報)を記入して冷蔵庫に入れておく。見える場所に貼っておく。	2
水害のときや地震のとき、具体的にどう行動すればよいのか分からない。	・避難訓練に参加する。 ・自助。	1
災害について知らない。 ・災害の歴史、情報について。 ・自分の家は大丈夫か？ (耐震化できているか。水がどこまで上がるか。)	・小学校(子ども達)と一緒に学ぶ。 ・まち歩きする。	1
多くの人の危機意識が低い。	・防災訓練を繰り返す。(地域ぐるみで。) ・学校とも連携。	1
絶対に浸かる避難所がある。	・絶対に浸からない避難を増やす。(垂直避難などを含む。) ・避難所以外に避難できる場所を探す。(神社、仏閣など。)	0

参加者アンケート

※午後までの参加者

告知	参加時間帯は？			ここに残ったキーワードは？収穫は？	工夫や改善点は？	自分ができること、やってみたいことは？	その他
	午前	昼	午後				
フェイスブック、その他(他の研修でチラシを頂きました)	☐	☐	☐	計画書提出だけではなくみんなで話し合うことが大切。		地域での防災の話が出ているので参加してみます。	
公共施設にあったチラシをみて(施設名：倉敷市役所)		☐	☐	公への提案制度。	最後のセミナーはもう1時間は必要と思った。	防災士なのでその業務をしっかり実践すること。	このような企画にまた参加したい。
口コミ、友人から聞いて			☐	地区防災計画(防災マップ作り等)	最高。	地域のコミュニティ作り。	学校教育への提案。
その他(家にチラシが持ち込まれた。)	☐	☐	☐	残したい未来を考えた現在の在り方を模索する。組み立て方に賛意。		小さな事からコツコツと！周りが動かないとグチをこぼさず自分の出来る事を続けていく。	
公共施設にあったチラシをみて(施設名：公民館)	☐	☐	☐	幼児への防災…子ども達がきることなく、また関心をひきつつ、防災に目を向けさせる方法。地域防災計画。		地域の防災訓練で幼児の防災。安全、安心ネットワークでの自主防災組織したりへの働きかけ。	グループ内でもとても楽しくお話しが出来、学ぶことが出来ました。ありがとうございました。
フェイスブック	☐		☐	防災の視点で、子育て支援の場は有意義だということ。若い世代の参加が必要。	午前の子どもへのワークでは、親も参加しているので、どういう目的でこの年齢の子どもの発達段階として、このワークをしているというお話があるとうれしいかと思えます。	自分の避難方法。	午前のワークに避難者がいるとキツイですね。絵本がの内容で～しないが4項目だったのが残念。子どもはまず自分の安全確保かなと思いました。
口コミ、友人から聞いて。フェイスブック。公共施設にあったチラシをみて。チカクのホームページ・ブログ。その他(職場の研修として)	☐	☐	☐	顔の見える付き合い。	グループの方々が、どこの所属の方か(例えば防災士さん、子育て支援、行政など)把握しながらグループディスカッションができたよかったなど。	人と人、地域と人、地球と地球を繋げていく。(行政も含む。)	異世代、異職種交流が出てきてよかったです。

告知	参加時間帯は？			ここに残ったキーワードは？収穫は？	工夫や改善点は？	自分ができること、やってみたいことは？	その他
	午前	昼	午後				
公共施設にあったチラシをみて(施設名：倉敷市役所)	☐		☐	たくさんの女性の方が防災に興味をもって活動をされていることを知ることができました。	後半の会場がもう少し広がったたらよかったです。	行政の手が届かない所をケアできる人材を増やしていきたいと思えます。	ステキな講座をありがとうございました。
口コミ、友人から聞いて	☐		☐	「おはしも」の「も」もどらないは大切なことです。「地区防災計画のあり方」未来なにをのこすか？	グループになったとき自己紹介をしていなかったのも、どんな人とお話しているのか知っておけばよかったです。	地区での防災計画をみてみたい。あるのかないのかも知らないのです。	あっという間の時間でした。ありがとうございました。
公共施設にあったチラシをみて(施設名：夢てらす)			☐	地域のコミュニティの活動。地域を知る活動。	時間がもう少しあればよかった。	地域活動の充実。(特に防災)	
公共施設にあったチラシをみて(施設名：倉敷市公民館)		☐	☐	活動のポイント：取り組む過程と結果の継続が必要であること。			
その他(職場にて)	☐		☐	「つながり」行政の方ができない事を自分達の意思で伝える事ができる事がわかってよかったです。	グループで、いろいろな方とお話しでき、あっという間でした。もう少しお話しできたらなあ～と思います。	お母さん方に今日の事をお話したいです。子ども達にも伝えたい。	
公共施設にあったチラシをみて	☐		☐	もっと地域がしっかりとつながれたらいいなとワークショップで思い、あらためて考えることができました。		避難場所をもう一度家族で確認してみたり、地域の方ともっとつながれる行事など積極的に参加してみたいと思いました。まずは自分ができる事から始めてみたいと思います。	
公共施設にあったチラシをみて(施設名：職場、山手保健センター内。ちびっこひろば。)			☐	「どのような未来を子どもたちに手渡したいですか？」改めて防災について考え、家に帰って我が子とも避難場所の確認等したいと考えました。		災害が起きた時、実際に何が必要なのか(衣・食・住)具体的に考えてみたいです。	

告知	参加時間帯は？			ここに残ったキーワードは？収穫は？	工夫や改善点は？	自分ができること、やってみたいことは？	その他
	午前	昼	午後				
その他(倉敷市)			○	地域防災計画。小5生の作文…弱音ををはけなかった。	防災危機管理の担当課が両市とも入ればよかったです。	各小学校区の地域コミュニティでも、防災について話し合う場がありますが、そこは高齢の人、男性ばかりになりがち。今日のような団体さん、女性の視点が、どうすれば入るのか、しくみづくりを考えていきたいと思います。	
ロコミ、友人から聞いて	○	○	○	地域の人が～したいということを知行政がサポートする。まさに市民協働だと思いました。	地域防災計画というものをよく知らなかったで、とても勉強になりました。ありがとうございました。	地域防災計画のあり方について学ぶ場を岡山市でも設けたいと思いました。	
		○	○	未来の子ども達に、どのような地域を手渡したいですか。	色々な職業・立場の方がおられたので、おはなしが興味深かったです。もう少し聞きたかったです。	個人としては、地域のことを知ろう、地域の方と防災の事を話題にしよう、と。ひろばのスタッフとしては、みんなに伝えていくこと	
ロコミ、友人から聞いて			○	子どもを巻き込むことで地域の活性化。	会場のレイアウト、面積がもう少し何とかならなかったか？	このような勉強を開くこと。総社市防災士有志の会の立ち上げと活動すること。	
ロコミ、友人から聞いて	○	○	○	地域の人とつながるということが災害時に大切だということ。		まずは、自分が学んだ防災のはなしを自分の子どもに伝えて、子どもと一緒に「もしもの時」のことを想定して、考えていきたい。	
ロコミ、友人から聞いて			○	防災士…良く知らなかった。年配者からの地域歴史の話をきいたり、子ども(小・中学生)に防災(地区の)教育していくことの必要を感じた。		地域コミュニティ、人とのかわり大切であること(防災のみならず)再確認した。どうしたら地域のつながり、絆ができていくか考えていきたい。	大変よい経験でした。ありがとうございます。まず未来を考え、それに向けて考えていく順序いいですね。

親子アンケート

2017/3/6 11:00-12:00

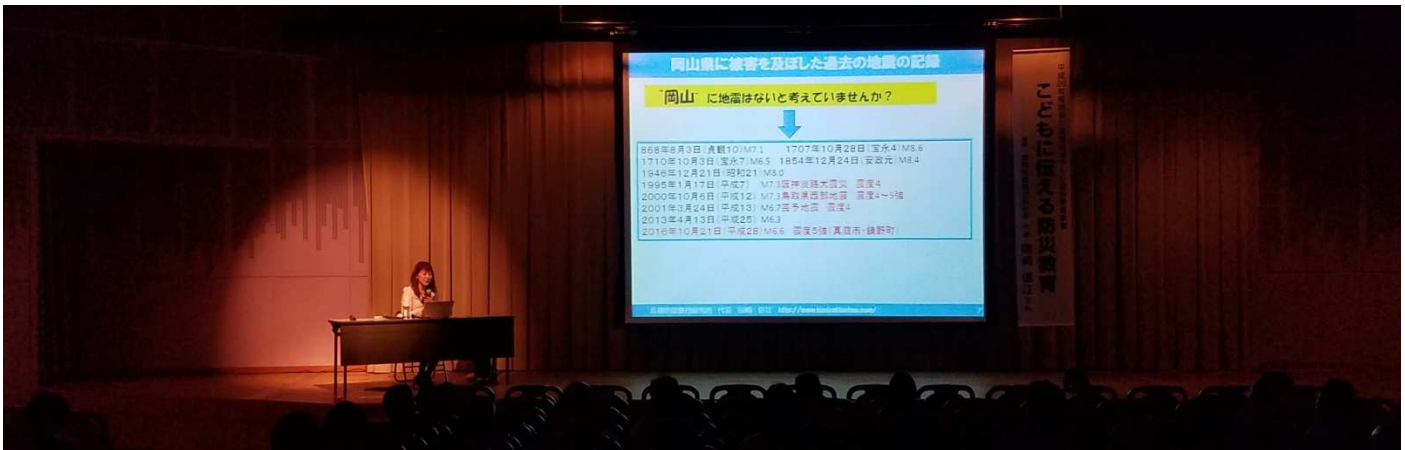
No.	感想
1	子どもがいる場合の防災グッズが参考になりました。たけしくんを救助する体験を子どもが興味を持ってやっていたので、とても良い勉強になったと思います。普段から地震のことを頭に入れて生活しなければならないと思いました。
2	勉強になりました。防災袋全然準備をしていないので、セットしたいと思います。ジャッキ、車の中にあるのかな?使ったことがないので、まず場所確認しないとダメですね…
3	災害の時の心の持ちようが一番大切なことが分かりました。体験があったのがすごくよかった。
4	岡山は、災害が少ない所。でも、いつおきるかわからないのが災害。考えさせられる講座でした。
5	卵のからぶみは思わず声が出るほど痛かったです。卵のからがあれだけ痛いのなら、ガラスなどもっとひどい事になると思うとぞ～とします。日頃の備えの大切さがよくわかりました。ありがとうございました。
6	講座名を聞いて、ちょっと難しそうだなと思ったのですが、卵の殻をふんだりジャッキをまわしたりする体験は家ではさせてやれないので、来てよかったです。子ども自身も何か感じてくれたのではないかと期待はしますが、実際はどうか…。私にとって子どもにとってもよかったなと思います。駐車場がいっぱいで、一度子どもをあずけてから車を動かしたかったのですが、それができなかったのが残念でした。
7	質問形式だったので子ども真剣に話を聞け、分かりやすくてよかったです。防災意識を風化させないようにきちんと準備を見直したいと思います。お散歩中の危険箇所チェック、さっそくやってみようと思いました。
8	本日はお世話になりました。改めて災害について考える機会になりました。自分が把握し、考えておくことはもちろん、子どもにも考えられるように伝え、知っておいてもらうことも大切だと感じました。カラ踏みやジャッキなど体験も多くてよかったです。

取材 | FM おかやま「フレッシュモーニング岡山」

2017/3/2 (赤木)、3/16 (磯打准教授)

こどもに伝える防災教育

2016年10月26日(水)13:30~16:30 @ くらしき健康福祉プラザ



取材 山陽新聞、倉敷ケーブルテレビ

倉敷都市圏版 Sign Display Conve

倉敷都市圏 2016年(平成28年)11月11日 金曜日

発言台

熊本地震が4月に発生するまで、熊本県は安全な場所では地震はないと多くの人が思っていた。岡山県も同様に、災害のない安心な県だとよく聞か、発生しない根拠はどこにもない。震源でなくとも、阪神淡路大震災(1995年)の時のように、大きな揺れは必ずやってくる。近い将来、発生が予想される南海トラフ巨大地震では、県内でも最大震度6の揺れに見舞われると想定されている。大地震が起こると、消防や警察を含む行政機関も被災する。医師や看護師がけがをし、医療機関も機能しないかもしれない。災害直後は行政も何もできない可能性がある。支援はないと思った方がよい。だからこそ、自助と共助が重要になる。

逃げることは考えがたが、まずは家を耐震化しなければ、逃げようにも逃げられない。柱や壁などの構造部材だけ

「こどもに伝える防災教育」

危機管理教育研究所代表 国崎 信江さん

自分で考え行動する力を

大きくった熊本県益高からうと低からうと城町で避難所運営が混乱した一つの理由に、必ず動く。固定すれば避難所に想定していた棚などの中身が飛び出し、使用できなくなることがある。使える避難所は過密になり、車中泊を余儀なくされる人も出る。

地震の発生から人が亡くなるまで時間はかかる。家具は固定から飛

でなく、非構造部材の耐震化も大切。建物が守られても、天井材を支えていたワイヤーが切れて床に突き刺さり、窓ガラスが割れ、照明は落ちてくる。学校のような施設では、特に関心を持って考えてほしい。

熊本地震の際、被害が、地震が起きると、

くにざき・のぶえ 危機管理アドバイザー。2008年に危機管理教育研究所(東京)を設立し、防災対策などを提唱。文部科学省の地震調査研究推進本部政策委員会の委員。3児の母。

防災とは、常に最新の情報や科学知識を得て、考え続けなければならない。難しいようだが、健康や美容の分野で新たな対策や商品が出るのと同じ。新情報に敏感になり、挑戦し続けてほしい。

10月26日に倉敷市内で開かれた「こどもに伝える防災教育」(一般社団法人チカク主催)の講演要旨。

平成28年度 高梁川流域地域づくり連携推進事業 報告書

17 | 一般社団法人チカク

平成 28 年度高梁川流域地域づくり連携推進事業
こどもの防災を考える「ちゃやっこ・こっこプロジェクト」

こどもの防災を考える「ちゃやっこ・こっこプロジェクト」最初の講演会は、小学校低学年ぐらいまでの園児・児童に対する防災教育について、危機管理アドバイザーとして多くの著作を持ち全国で講演している国崎先生をお招きします。こどもたちが防災教育から学ぶのは災害についてだけではなく。身近にひそむ危険を知り観察する力や、命の大切さや人とのつながりをイメージできる思いやりの心などが育ちます。地域の子育て支援関係者、保育・教育や防災に携わるみなさんのご参加をお待ちしています。



講師

国崎信江さん

横浜市生まれ。危機管理アドバイザー。

危機管理教育研究所代表。

女性として、生活者の視点で防災・防犯・事故防止対策を提唱している。

地震調査研究推進本部政策委員会、防災科学技術委員会などの国や自治体の防災関連の委員を務める。現在は講演活動を中心にテレビや新聞などのメディアに情報提供をおこなっているほか、被災地での支援活動を発生直後から継続しておこなっている。

著書に、

「実践！園防災まるわかり BOOK」

「決定版 巨大地震から子どもを守る 50 の方法」

「こども地震サバイバルマニュアル」

「じしんのえほん こんなときどうするの？」

「ぼくの街に地震がきた 大震災シミュレーションコミック」

「地震からわが子を守る防災の本」

「マンション・地震に備えた暮らし方」

「地震の準備帖—時間軸でわかる心得と知恵」

「これ 1 冊でできる！わが家の防災マニュアル」

「狙われない子どもにする！親がすべきこと 39」

「わが家のチャイルドセキュリティあらゆる危険から我が子を守る Q & A」など

防災教育

こどもに伝える



2016 年

10/26

(水) 13:30 ~ 16:30 (受付 13:00 ~)

【会 場】 ぐらしき健康福祉プラザ 5 階 ホール (倉敷市笹沖 180 番地)

★駐車場はありますが、施設利用者が多い日は駐車できない場合もあります。

【対 象】 子育て支援・保育・教育にかかわる方、こどもの防災に興味のある方、地域の防災にかかわる方

【参 加】 無料 (要事前申し込み)

【申 込】 ①~④の内容を明記し Email か FAX でお申し込みください。

Email ekinotikaku@gmail.com

FAX 050-3488-4116

【主 催】 一般社団法人チカク TEL 080-2900-8110

【協 力】 NPO 法人きよね夢てらす

参加無料
(要事前申し込み)

- ① お名前と所属
- ② お住いの郵便番号
- ③ 連絡のつく電話番号かメールアドレス
- ④ 参加の動機・質問など

※定員 200 名 (先着順に受付。定員になり次第、締め切ります。)

こどもに伝える防災教育 アンケート

2016/10/26

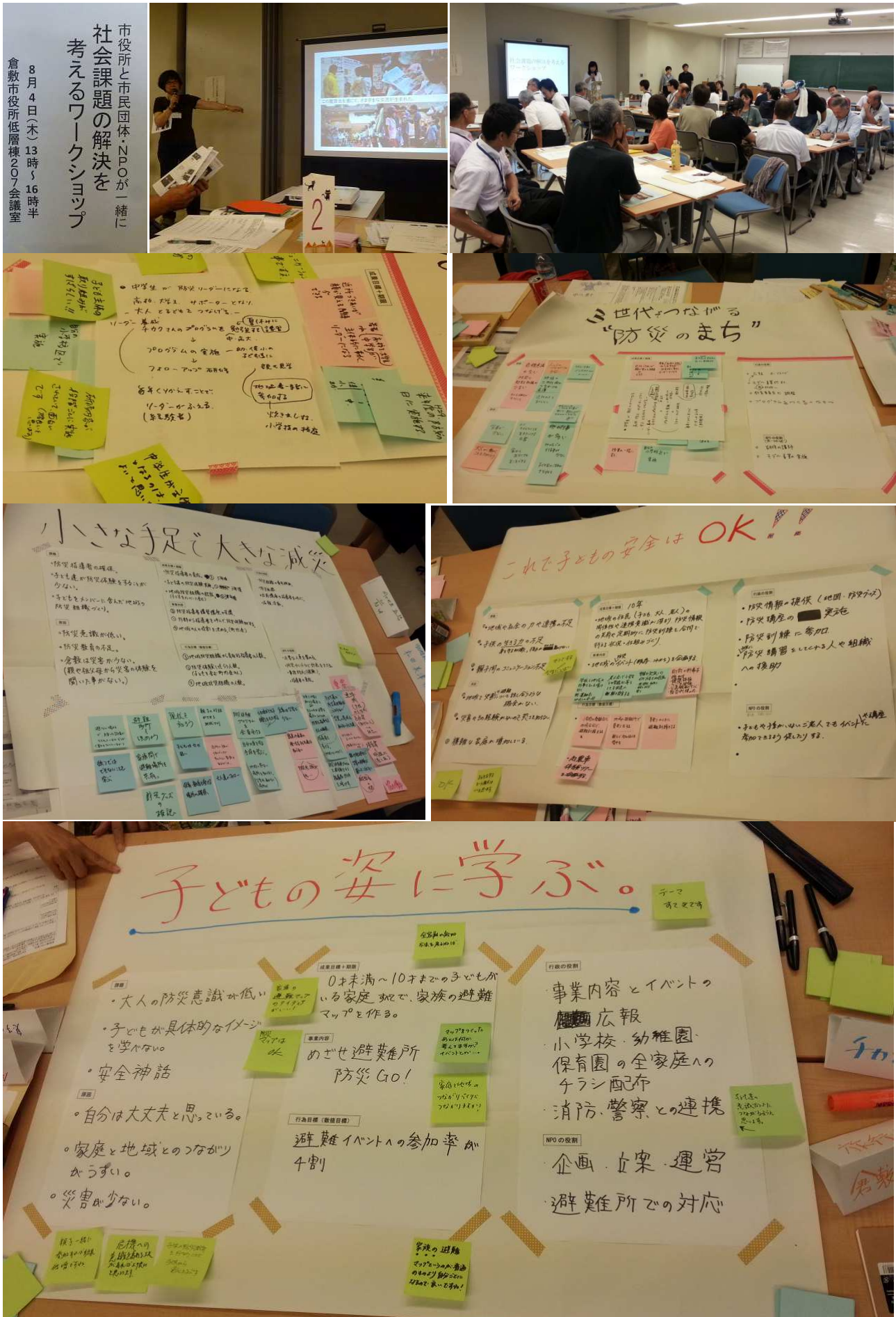
1.この催しは、どのようなお知らせになりましたか？	2.この催しに参加された目的をお聞かせください	3.満足されましたか？なにか収穫がありましたか？	4.もう少し、ここが、こんな風だったらよかったな、と思うことはありましたか？	5.あなた自身ができること、あるいはやってみたいな、と思うことがありますか？	6.なにかほかにご意見がありましたら、お聞かせいただければ幸いです。
公共施設にあったチラシをみて	防災に関心があったので。	ありました。とても役に立ちました。		いろいろ	質問 ・蛍光灯カバーとかテープについて ・耐震の家屋といっても壊れる可能性があるのですが、そういう家を手に入れるためにお金を使うのと、再建用にお金を貯蓄しておくのとどちらが有効でしょう？ ・ピロティーのお築20数年(12階建ての6階)のマンションと下が店舗の9階建ての4階の築42年の建物はどちらが安全でしょうか？
プラザにあったチラシをみて	防災士です。知識習得のため。	大満足です。		防災訓練とか、教育の機会に活かさればと思っています。	実践的なお話で、今までのちしきの浅いことに気づきました。子の意識が今後の言動に役立つと考えます。
チカクのホームページ・ブログ	地震があったので	そなえること			
口コミ、友人から聞いて	災害の時に少しでもすむようにと思って	よくわかりました。自主防災組織で勉強会を開くときに参考にする。		自分の身は自分で守れと訴えたいと思います。	
公共施設にあったチラシをみて	防災士として、仕事として今後に活かしたい。また、テレビでよく見ている講師の話が聞きたかった。防災ベストを作成された方である為、話が聞きたかった。	新しい情報が知れて良かった。社会貢献型防災教育、火災の際のマスクの効果がないなど)	講演会開催のPR不足を感じた。参加者が少ないので講師に申し訳ない。講師はネームバリューのある方なので失礼であると思う。もっとPRをするべきである。又後援、共催してくれる所があるのでは？	事前防災に力を入れたい。	ありがとうございました。又講師の話を知りたいです。
保育、幼稚園課よりのFAX	いつ災害が起きてもおかしくない現代で子どもたちを守っていくためには、どのような防災の指導をしていけばいいのか学びたいと思ったため。	今まで自分たちが実践してきた避難訓練は何の訓練にもなっていないことに気付いた。地震によりどのような被害が起こってしまうのかを想定しなければ本当の訓練を行うことはできないと思った。	子どもに伝える防災との題だったので、もう少し子供向けな部分、保育、教育現場向けな話を取り入れてもらえたら良かったな…と思います。	日頃の危険予測、避難訓練を見直し、改善していきたいと思った。	本日は貴重な話を聞かせて頂きありがとうございました。驚くことも多々あり自身の防災意識も変わったように思います。
新聞記事？	防災意識の向上	災害を未然に防ぐためのアドバイスを頂きました。		現場での啓発活動	現場設置でテーブルがあれば、ポイントの記入など楽ではなかったか。プロジェクト（映像）との関係性はあると思いますが、会場口がもう少し明るければ書記しやすいと感じました。
倉敷市市民活動センターにあったチラシをみて	地域の防災訓練に参加する時の知識を得るため	非常に満足。科学的実験の状況が見られたこと。具体的な対策が聞けた。子どもの教育の方法を聞けたこと。		地域の防災訓練のあり方を考える。	
職場より		満足。避難訓練の見直し		家具の固定	
フェイスブック	防災教育に興味があった為	大満足。		地域にもっともっと防災についてお話しをしていきたいです。	大変参考になりました。ありがとうございました。

	防災について勉強のため	今まで考えていなかったことに気づかされた。自分で何かしないといけないと感じた。	映像もあって分りやすかったです。	室内の見直し	
口コミ、友人から聞いて フェイスブック 市民活動センターにあったチラシをみて	地域で子育て支援をしていること、地域で防災活動を担当していること、などから改めて学ぶ機会にしたいと思って参加した。	今まで常識とされていたことを科学的根拠を知ることが大事。このことから防災に活かされていない家具の固定のこと、頭を守るヘルメットを備える。「自分の身を守る」ことを伝える活動を続けようと改めて頑張ろうと思いました。		防災も新しい情報を知ること、その中から自分の防災を見直していく。	地域での活動、特に防災の活動にはとても大きな壁があります。その中で参加できてとても参考になって良かったです。ありがとうございます。まずもう一度自分の身の周りを見直します。
市役所より	保育園での防災訓練等	置物の固定法			
	保育園での防災教室について詳しく知りたかったため	私たちが今、園で当たり前のようになっていることをまずは本当にそれで身を守ることができるのかという考えをもつことが大切だと分りました。		防災教育として去年、体験会の方をさせていただいたので、受け継いでいきたいと思っています。	
チラシが送付されてきた	具体的な事例を通じて防災を学びたい。	身近なことでわかりやすい。今日からでもできることが多くあった。		仕事にいかす。	「地震で死んでたまるか」という叫びが印象に残った。この気持ちが出発点だ。
公共施設にあったチラシをみて	保育園の避難訓練のため	はい、とても勉強になりました。訓練の仕方を考え直さなと思いました。	ない、とても良かったです。		
口コミ、友人から聞いて	家庭、こどもを守る方法を知りたかったからです。	満足です。まず自分たちの足を固めよ、ということでしょうか。自助がいかに大事か考えさせられました。ありがとうございました。		家具の固定、食料備蓄。	
チカクのホームページ・ブログ	子育て支援施設の防災への助言をもらえるのは、どのような人が良いかを探すヒントとして		建物構造別のヒント、対策	子どもたちへの平素からの防災意識を高める教育	
口コミ、友人から聞いて	自分、もしくは地域、子どもの防災教育をしたい	とてもよかった。		もっと学校とかに出かけて話しをしたい。	
市からの紹介で	保育園で働いているので	たくさんありました		耐震について考えたい。家具の固定なども。	
フェイスブック	自分自身が防災意識が高くないので、専門的な知識を知りたいと思った。	どれもこれも収穫でした。		「とりあえず」の事のお話しだったと思います。家の状況によっても個々の物についても変わるからよく考えていくことが必要ですね。	ぼーっとしている岡山県に、どう広めていくかは課題ですね。
公共施設にあったチラシをみて				ぜひとも食品の備蓄、食器のすべり止め	市内の施設（保・幼・小・中他の公共施設）や防災担当に是非聞いて欲しかったです。又、地域向けの研修もしていただきたいと感じました。
園に送ってきてくださったもの	園児の安全を守る為の防災のあり方を勉強したかった。	今まで、子どもたちに避難訓練で指導してきたことが、間違っていた事を知り、考え直さなければならぬと気付いた。	園内の避難訓練のあり方について、もう少し具体的に話を聞きたかった。	ヘルメットの購入を始め、食糧を蓄えて備えておく。	有意義な時間でした。ありがとうございました。

保育園にあったチラシをみて	子どもの安全を守りたい	今までの常識が通じないことがある。	もっと具体的な方法を教えて頂きたかった。	避難の仕方、身の守り方について考えて教えていきたい。	
水島児童館にあったチラシをみて	地震等防災に関して意識も低く、知識もないので勉強したくて来ました。	大満足です。いつも当たり前に行っていたことが感覚的なもので科学的な根拠の低いものと分りよかった。「自助」できる力を少しでも体得したい。	特にありません。	「固定しない物は動く」という言葉が印象に残ったので、できるところから固定していきたいと思った。	良い機会をつくってください、ありがとうございました。
フェイスブック	国崎先生の最新のお話を聞きたかった。	もう少し緊張感を持って防災のことを学んで実践していきたいです。	参加人数が少なくてもったいない気がしました。		
公共施設にあったチラシをみて。 チカクのホームページ・ブログ	学びとして、子どもたちや乳幼児を持つ親子に伝えることがあればという思いです。	再度学びになりましたし、新しい学びもありました。		水の保管はやはり1ケース買っておかなければ。ヘルメット自分のだけだった。	土日によれば園や学校の先生も来れたように思えました。
フェイスブック	熊本・鳥取の地震後の国崎先生のお話を聞きたかったから。	子ども自身がとっさに反応して自分が動けるようにするとういこと。ハンカチに意味がないと分ったこと。建物自体、住んでいる階が重要で対策が違うこと。	アンケートを書く時に証明（会場）が暗かったこと。	益城町の防災アドバイザーをされていることをもっとPRできたら人が増えていたかと思います。（最新の現場の様子もきけるので）	

社会課題の解決を考えるワークショップ

2016年8月4日(木)13:00~16:30 @ 倉敷市役所低層棟207会議室



園児向け 防災体験プログラム

2016年8月4日(木)10:00～11:30 @ 遍照保育園



小学生向け 防災体験プログラム

2017年3月28日(火)10:00～11:30 @ きよね放課後児童クラブ・ランドセル



放課後児童クラブでの防災体験プログラムです。

最後に今日、感じたこと学んだことを話し合っグループごとに発表してもらいました。

「おはしもー地震の時、守らないといけないこと」「卵を踏むのが楽しかった」「もしも地震があったらどうすればいいのかわかった」「避難袋の中にいろいろなものが入っていた」「音を出して助けを呼ぶやり方、頭を守るやり方がわかった」「卵を踏むと痛かった」。

帰るときに、一人ずつ三人の女の子が、「貴重な体験をありがとうございました」とわざわざ講師の三村先生のところにいいに来てくれたそうです・・・ステキです。

園児向け 防災体験プログラム

2017年3月30日(木)10:00~11:30 @ 牛窓ルンビニ保育園



海のそばの保育園での防災体験プログラムです。日ごろの訓練の賜物か、みんなハキハキお返事していて感心しました。この日は、新しい二人のメンバーの先生デビューの日。「そなえる」絵本を読んでいるときの、みんなの瞳がキラキラしていてとても素敵だったそうです。災害直後、みんながせわしく余裕のないときこそ、「ありがとう」というお礼のことばが大切。園の先生からそんなことも学びました。

==

防災体験プログラム | 牛窓ルンビニ保育園

年長 16 人 年中 27 人 年少 17 人 職員 12 人

2017/3/30 10:00~11:30